

6年間の成長を実感する伝統行事(全校遠足)

校長 永井裕子

さわやかな秋風に、玄関前ロータリーの花壇の花々が、元気を取り戻したかのように再び色鮮やかになりました。今年もPTA環境育成部の皆様のお世話のおかげで、あの猛暑を乗り越えられたことに、感謝しています。5月にPTA活動でこの花壇に苗を植えるころ、紫竹山小学校では、1年生を入れて、前期のなかよし班(縦割り班)を編成し、毎年「なかよし班活動」をスタートします。年間を通して、「協力」と「思いやり」を合い言葉に、なかよし班でさまざまな活動をすることで子どもたちの縦の人間関係づくりを進め、「思いやりがあふれる温かい(ぽかぽかの)学校」を目指しています。

去る9月20日、秋晴れの空のもと、今年も「**全校遠足**」を行いました。全校児童531人を70のなかよし班(縦割り班)に編成し、班ごとに協力して鳥屋野潟を一周するコース(約10km)を歩きます。この学校行事は、前期のなかよし班での「総まとめ」となる大切な活動です。長い距離を歩くので、1年生が最後まで歩き通せるのかという不安もあります。**今年で16回目**を迎える全校遠足ですが、当初は体力の向上が大きなねらいの一つだったと聞いています。ここ数年は、縦割り班の中での自分の役割を自覚させ、一人一人のめあてを明確にもたせて活動させたり、「振り返り」をしっかりと行わせて一人一人のよさや班として成長したところを認め合ったりすることも大切にして、改善を加えています。

10kmを歩き通し、笑顔で学校に戻って来た子どもたちは、カードに「振り返り」を書きました。6年生は、「班長は大変きつけれど、その分やりがいを感じて大切な役目だと思った。最高の思い出になった。」「班長・副班長としてのめあてを達成し、最後の遠足は自分の成長を実感できた。」「小学校最後ということで、どんなときも笑って楽しもうと思ひ、つらいときもみんなを励ました。私の行動が、5年生につながってほしい。」などと記述していました。

他の学年の子どもたちの振り返りからも、班の中での自分の役割を自覚し、自己の成長を実感していることが分かりました。上学年の子ども姿に学び、それを次のめあてとしていくことが、しっかりと受け継がれている「**伝統行事**」になっています。



今年度も多くの保護者・地域の皆様から、ボランティアとしてご協力いただきました。「全校遠足」は、多くの保護者の皆様のご協力が始まったと伝え聞いています。平成22年度からは、地域と学校パートナーシップ事業の取組の一つとして行うようになり、10年が経ちました。以前保護者として参加されていた方が、今でも地域の方として毎年ご協力くださっているともお聞きします。今年も64名の方から、班ごとの活動を見守り支援していただいたり、歩くコースでの安全確保をしていただいたりしました。ボランティアの皆様から、活躍の様子をほめていただいた6年生もいました。子どもたちは、の多くのおとなの方とのコミュニケーションを通して、かかわりをより豊かに広げていることも実感しているようです。このように、「全校遠足」では、多くの皆様から子どもたちの成長にかかわっていただいていることに、心から感謝申し上げます。